



JFMA FORUM 2009 セミナー

「キャンパスFMガイドブック2008」の紹介

— 根拠に基づいたFMを目指して —

JFMAキャンパスFM研究部会

2009.02.09



INDEX

CAMPUS FM GUIDEBOOK 2008

キャンパスFMガイドブック 2008

根拠に基づいたFM (Evidence-based Facility Management) を目指して



社団法人 日本ファシリティマネジメント推進協会
キャンパスFM研究部会

JFMA
Japan Facility Management Promotion Association

「ガイドブック2000」以降の動き

「ガイドブック2008」の目的

「ガイドブック2008」の編集方針

「ガイドブック2008」の紹介

キャンパスFM研究部会の今後の活動



「ガイドブック2000」以降の動き



「キャンパスFMガイドブック2000」以降の動き

	2000 以前	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
〈研究部会〉	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドブック2000 発行 ●IFMAアジア大会(香港) 	<ul style="list-style-type: none"> ●キャンパスFM米国調査 	<ul style="list-style-type: none"> ●World Workplace Japan 2003 	<ul style="list-style-type: none"> ●上智大学調査 ●法政大学調査 ●KAFMでの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●名古屋大学調査 			<ul style="list-style-type: none"> ◎アクションプラン 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドブック2008発行 	
〈文部科学省〉		<ul style="list-style-type: none"> ●遠山プラン 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育法改正 (第三者機関評価) 		<ul style="list-style-type: none"> ●国立大学法人発足 ●第三者機関評価開始 ●私立学校法改正 (理事制度の改善 幹事制度の改善等) 		<ul style="list-style-type: none"> ●国立学校法人 長期借入 減損会計 導入 			
		国立大学等施設緊急整備5か年計画					第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画			
〈他機関〉	<ul style="list-style-type: none"> ■文教施設協会発足 ■大学行政管理学会発足 			<ul style="list-style-type: none"> ■施設運営組織の見直し (施設マネジメント部 施設運営部 ファシリティ部等) 		<ul style="list-style-type: none"> ■国立大学マネジメント研究会発足 		<ul style="list-style-type: none"> ■施設マネジメント研究会発足 ■大学行政管理学会 ファシリティマネジメント研究会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ■名古屋地区で大学施設マネジメント研究会発足 	

国立大学法人名古屋大学における 戦略的ファシリティマネジメントの実践

国立大学の独立行政法人化にともない、大学の経営陣が整備され、施設担当理事が置かれ、FMが大学経営のなかで重要な位置づけがされている。大学改革に対してFMが貢献できることを実証するリーダー役として、今後の発展も期待される。

- 独立行政法人後、FM取組
 - (1) 最適ファシリティ配置
 - (2) 管理情報の一元化(CAFM)
 - (3) 運営維持の最適化(統括管理／組織)
 - (4) 財源の確保と運用の精査(収益モデルへの転換)
 - (5) 「大学FMコンソーシアム」の創設構想
- 統括マネジメント組織機能の設置(施設計画推進室)
- 国立10大学法人のベンチマーキング

ファシリティマネジメントの 実践的教育・研究に関する一連の取組

熊本大学大学院 自然科学研究科 環境共生工学専攻
人間環境計画学講座

位寄・大西研究室

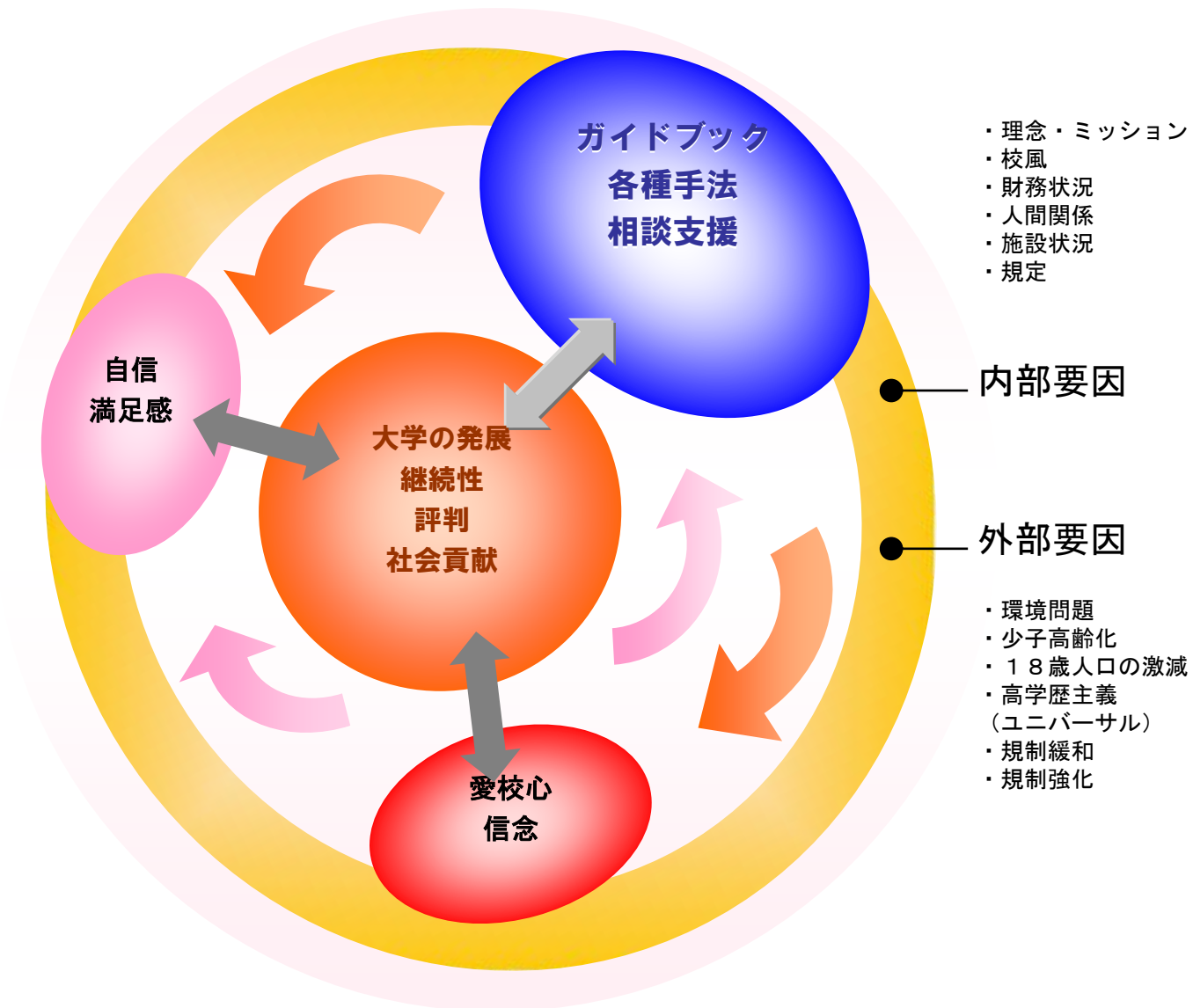
- 熊本大学におけるFM研究を活用した実践的FM教育と、大学キャンパスのFMに展開する研究・教育の業績とFM実践への活用である。
- FM研究は約15年間、FMに関する教育は1998年から10年間継続している。
- 大学キャンパスのFM推進では、教授、施設、財務関係者が参加して、計画を立案、決定する体制を整備している。



「ガイドブック2008」の目的



「キャンパスFMガイドブック2008」の目的





「ガイドブック2008」の編集方針



「キャンパスFMガイドブック2008」の編集方針

■ 「キャンパスFMガイドブック2000」を継承

2000年発行の「キャンパスFMガイドブック」は、国立大学の法人化と相まって民間的手法の導入と言う視点において、その一助となった。

その後、「大学経営」という意識が定着し、2008年版は、これを踏まえ、大学経営を本格的に支援して行くスタンスに立って編集した。

■ 大学経営の支援ツール

一般企業のような経営管理を実施して行くことが難しい大学において、キャンパスFMを実践していく上で、必要な知識や技術を身に付け、各大学が掲げる理念を具現化するために寄与するものとした。

■ 文書化

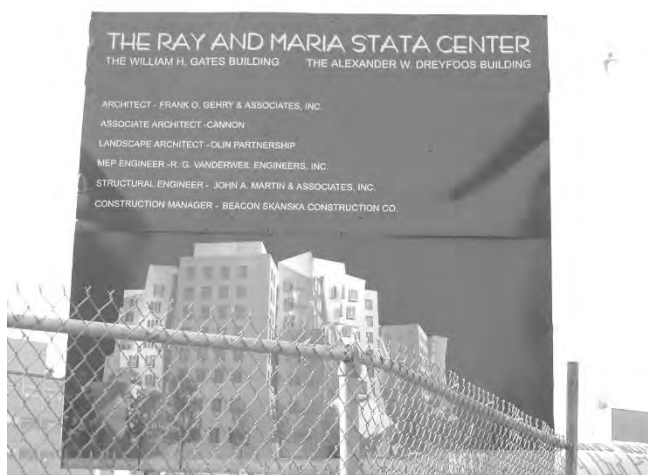
業務内容、業務手法等を文書化することで、FMの業務をより具体的に理解していただく。また、読書の方に、自分達の業務を洗出し、業務プロセス他関係部署との関係及び業務範囲の線引き等を文書化することの必要性を認識していただく。

■ 管理職をターゲット

原則として、理事会を直接サポートするFM部門の管理職である部長・課長をターゲットとした。初級や中級の担当者には、スキルアップの動機付けになるような情報提供をして行く。



「ガイドブック2008」の紹介



「キャンパスFMガイドブック2008」の目次立て

プロローグ

第1章 大学の現状

- 1.1 キャンパスFMガイドブック（前編）からの動き
- 1.2 大学に対する社会的要請
- 1.3 キャンパスFMの課題

第2章 大学経営支援

- 2.1 大学経営の特徴
- 2.2 大学経営の中のFMの位置付け
- 2.3 新しい経営環境

第3章 キャンパスFMの体系化

- 3.1 FM部門のリレーションシップ
- 3.2 役割・機能
- 3.3 管理項目
- 3.4 業務体系
- 3.5 組織体系
- 3.6 人事管理体系

第4章 キャンパスFMの進め方

- 4.1 FM業務の洗出し
- 4.2 統括管理
- 4.3 企画・計画
- 4.4 財務
- 4.5 契約
- 4.6 施設整備
- 4.7 管理運営
- 4.8 評価

第5章 キャンパスFMに必要なスキル

- 5.1 必要なスキルの洗い出し
- 5.2 キャンパスFMのスキル体系
- 5.3 マネジャスキル
- 5.4 プロフェッショナルスキル
- 5.5 ベーシックスキル

第6章 キャンパスFMの狙い

- 6.1 これからのために
- 6.2 ベンチマークセンターの諸外国実例
- 6.3 不断の改善

エピローグ

参考資料（事例研究会・他）

プロローグ



キャンパスFMの目的と目標

FMの考え方

大学という組織活動のために施設及び環境を総合的に企画・管理・活用する経営活動

FMの基盤

学 生：教育環境の提供
研究者：研究環境の提供
教職員：執務環境の提供

企 業：知の提供
 人材の供給

社 会：文化の供給
 科学への貢献

卒業生：校風の継承

父 母：教育資源の継承

FMの目的

人

人材育成、科学技術への貢献、文化の継承のため、人が満足して活動できる環境づくりと継続的な提供を行う

大学組織

教育研究理念を具現化するため、教育研究目標を設定し、財務管理をも含めた環境創造を行う

社会

環境保全を尊重しつつ地域社会との協調・調和に基づいた環境づくりを行う

FMの目標

品質

- ・ 品格性
- ・ 快適性
- ・ 機能性
- ・ 信頼性
- ・ 適合性
- ・ 知的創造性
- ・ 満足度

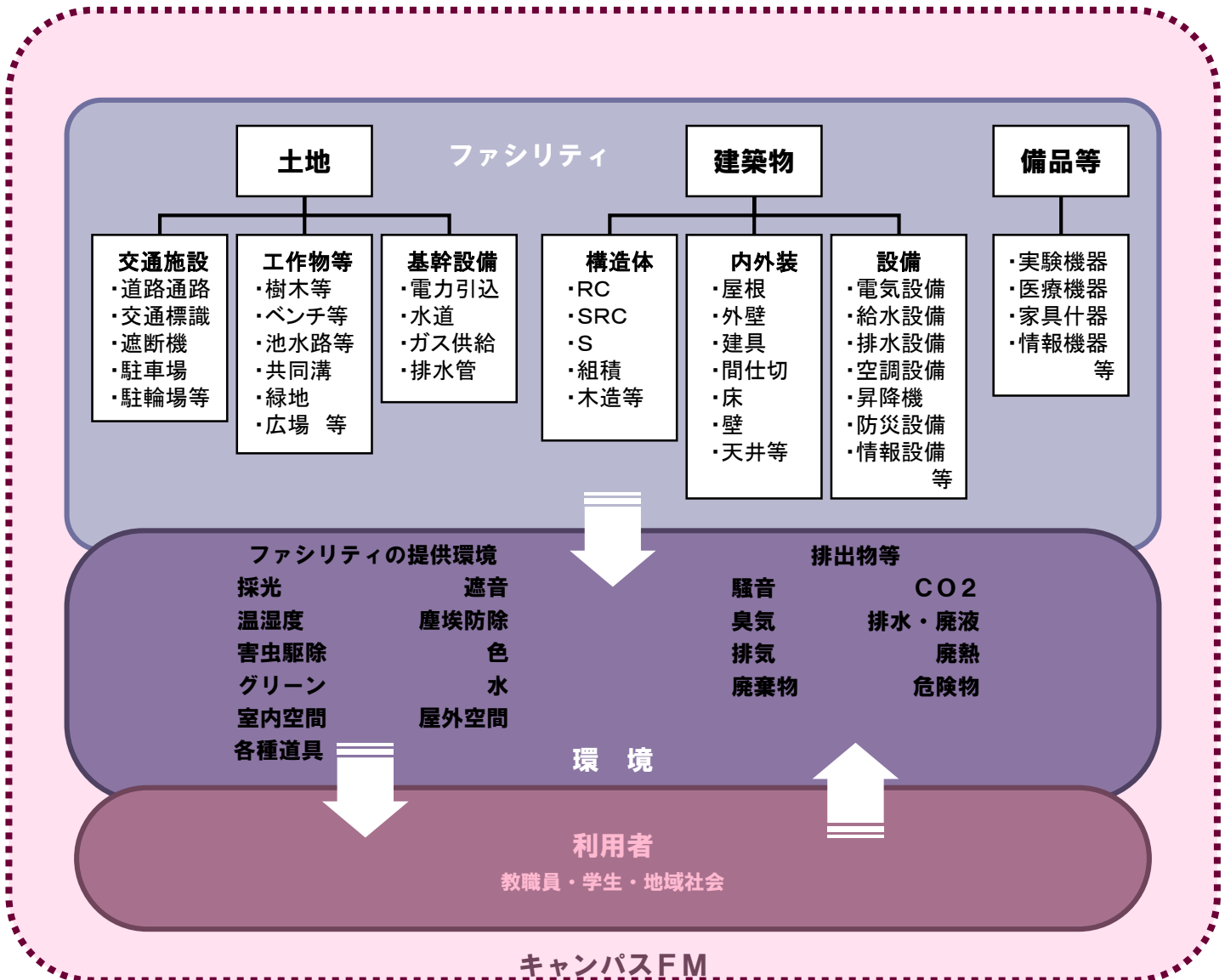
財務

- ・ 施設運営費
- ・ 施設関係投資
- ・ 施設関係資産
- ・ LCC

供給

- ・ 財源確保
- ・ 需給対応性
- ・ 施設利用度

大学のファシリティとFM



大学職員への期待

■ 理論的思考力 ～教員・役員から～

教員から「頼むから大学行政は職員の方でやってほしい」「私たちは専門じゃないから出来ない」

役員から「職員の専門性や能力の向上が必要だ」

■ 「少し出しゃばる」 ～既存の枠を超えた取組～

成果を上げようとする、少し出しゃばって事務分掌を超えたことを行わないと、既存の縦割りの中では、新たな取り組みはなかなかできない。

ただ好き勝手に云いたいことを言うのではなく、理念や目標に基づいた自らの領域や専門から出てくることでなくてはならない。

■ 経営支援

経営を支援するために、自らが分掌する業務をより専門的視点から究め、科学的な分析に基づく企画や説明が求められる。



第1章 大学の現状

- 1.1 キャンパスFMガイドブック(前編)からの動き
- 1.2 大学に対する社会的要請
- 1.3 キャンパスFMの課題

大学の現状

■ 国立大学の法人化

- 機能・権限の分権化
- 弾力的な人事制度
- 事後チェック

■ 私立大学法の改正等

- ガバナンス改革
- 基本金取崩しの緩和

■ 第三者評価制度

- 不断の自己点検・評価
- 事後評価による質の確保

■ 大学全入と競争激化

- 志願者≧収容力
- 大学の倒産

■ マネジメントの台頭

- 大学行政管理学会
- 国立大学マネジメント協会
- 施設マネジメント協会

大学に対する社会的要請

■大学ランキング

- マスコミによるランキング
- 投資格付け会社によるもの

■人材育成

- 社会への有能な人材の供給
- キャンパス・ファシリティマネジャーの育成

■法規制強化

- 市場化テスト
- P R T R法
- 労働安全衛生法
- 環境問題に係る法律

■地域連携

- 住民参加
- キャンパスの利用促進

キャンパスFMの課題

■ 経営手法の導入

- M B A (Master of Business Administration)
- N P M (New Public Management)

■ 知識創造空間の創造

- 七つの知識創造空間 (徳島大学掛井准教授)
- 知識創造空間の四つの機能 (慶應義塾大学渡邊准教授)
- 複合する四つの場での知識創造空間 (東京大学)
- 1 2 の知識創造行動とクリエイティブ・オフィス

■ 継続性

- 業務遂行上のリスク
- 経営戦略上のリスク
- 事業継続マネジメント
- 運営継続プロセス

■ 地球環境問題の台頭

- I P C C 第四次報告
- 洞爺湖サミット
- I S O 1 4 0 0 1 取得

第2章 大学経営支援

2.1 大学経営の特徴

2.2 大学経営の中のFMの位置付け

2.3 新しい経営環境



大学経営の特徴

■組織と個人の二軸

□組織：ミッション（組織の目的）を達成して行く側面

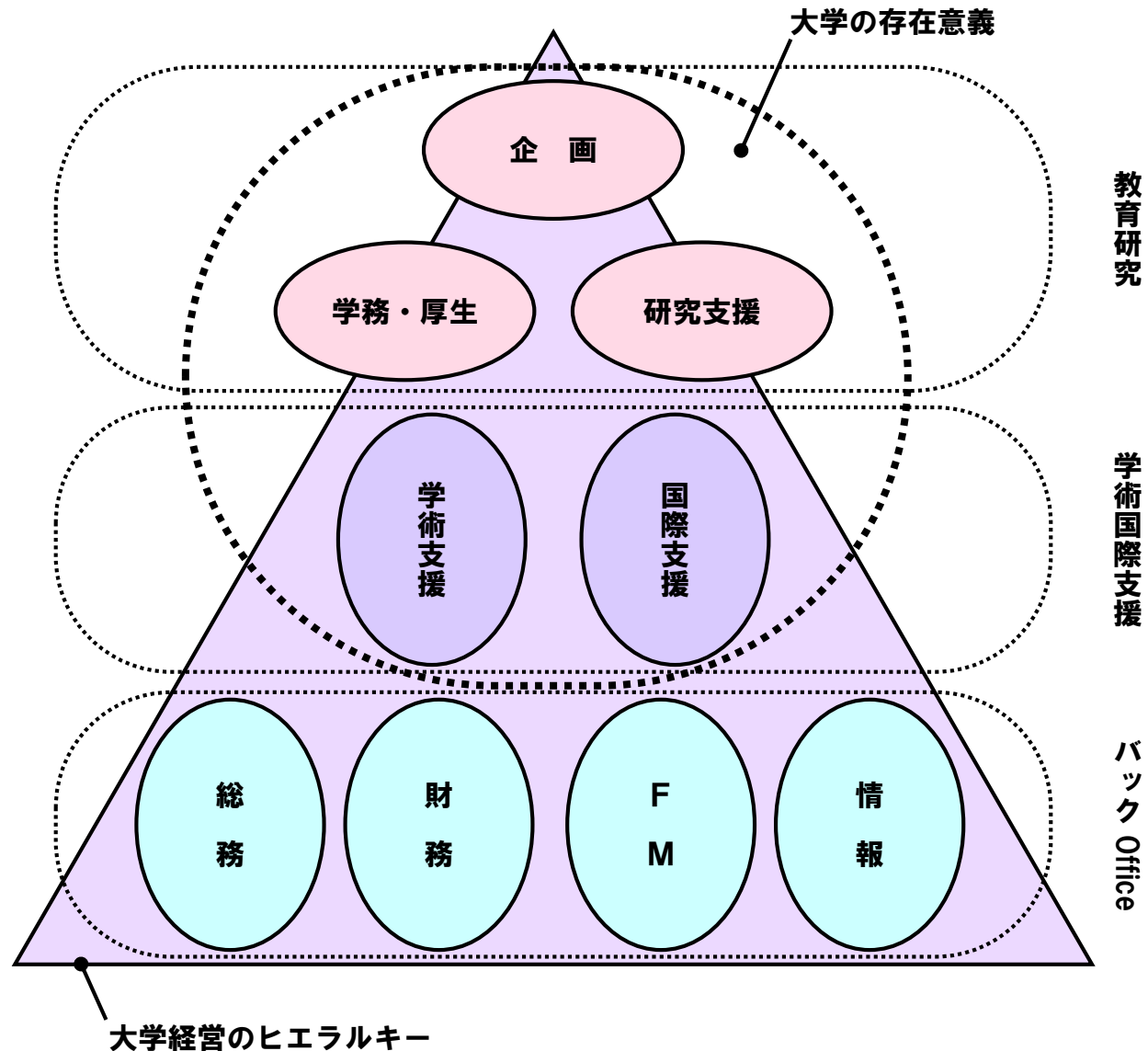
□個人：学生・教職員等の構成員を満足させる側面

■組織形態がピラミッド型でなくフラット型で細分化

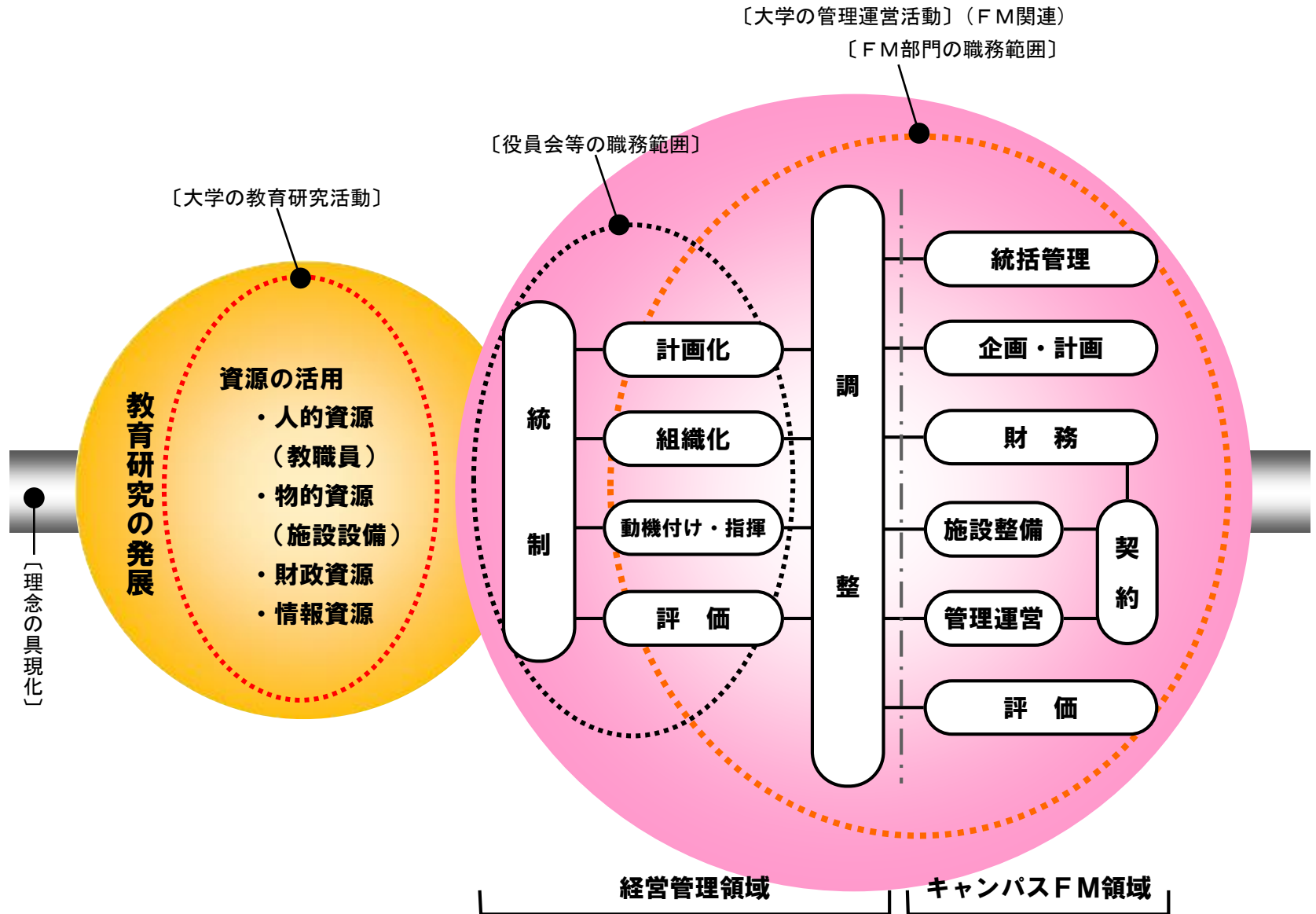
■個々の組織が異なった目標を持つ

■利害を大学全体で同一にすることが困難

大学経営の体系化



大学経営の中のFMの位置付け



新しい経営環境とFMの役割

経営環境

低成長経済

有効活用

顧客満足

寄附増進

経営課題

効率経営

付加価値経営

知的創造性向上

USR経営

FMの役割

経営資源である
ファシリティの
利用をより効率
的にマネジメント
する

経営資源である
ファシリティを
有効に活用し新
たな価値を創出
する

経営資源である
ファシリティが
知的創造性を向
上させるように
マネジメントす
る

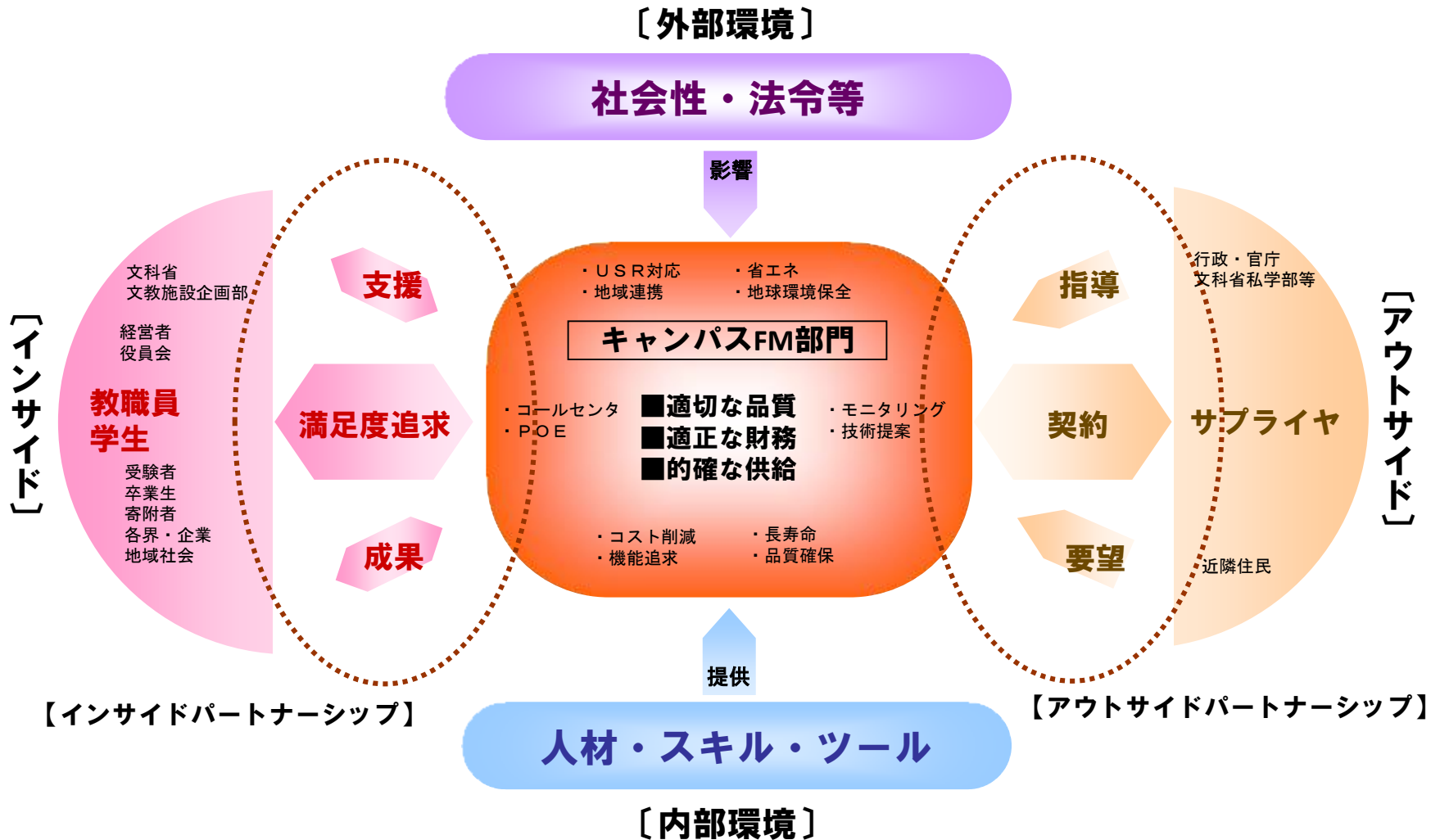
経営資源である
ファシリティが
社会環境に貢献
するようにマネ
ジメントする

第3章 キャンパスFMの体系



- 3.1 FM部門のリレーションシップ
- 3.2 役割・機能
- 3.3 管理項目
- 3.4 業務体系
- 3.5 組織体系
- 3.6 人事管理体系

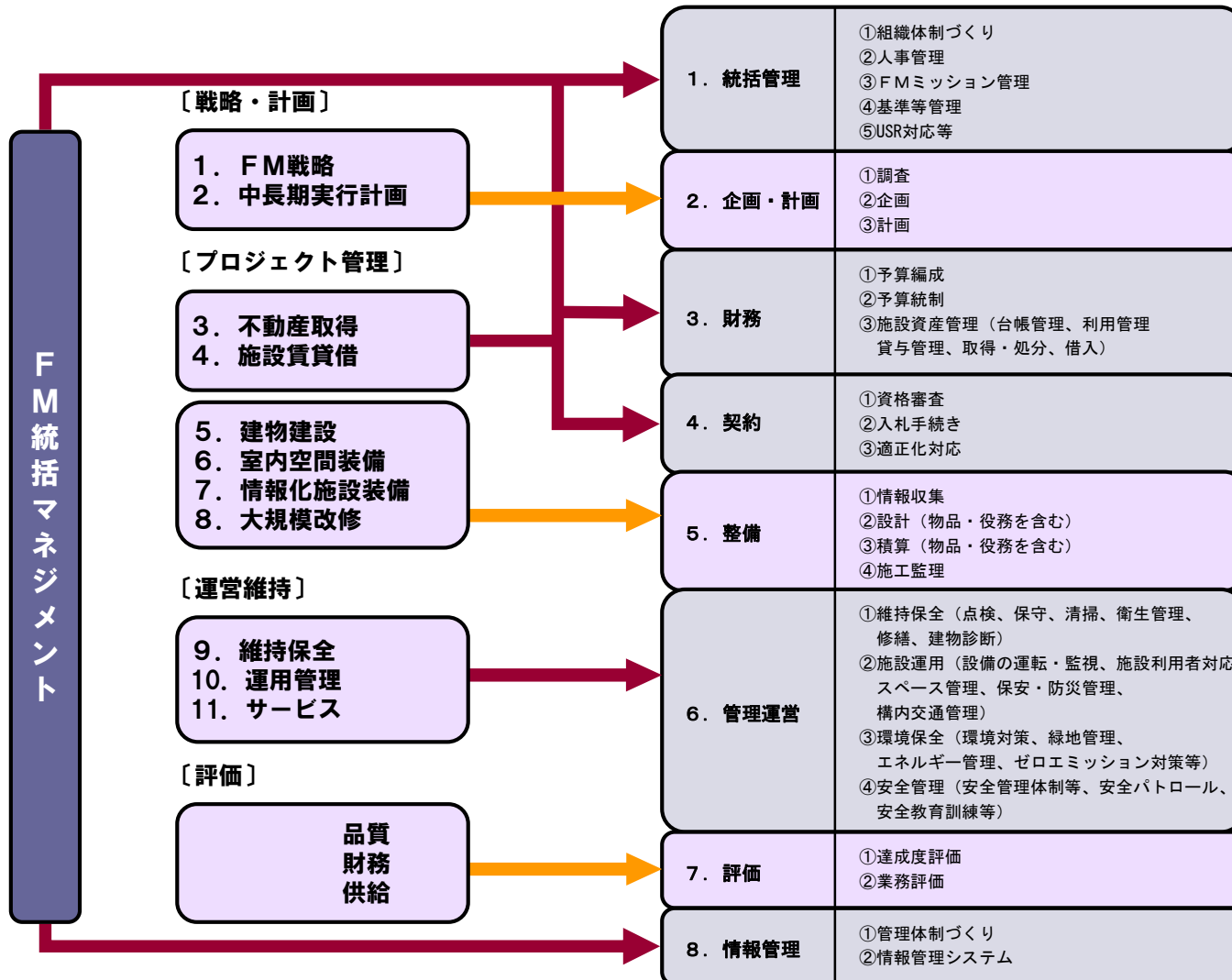
F M部門のリレーションシップ



FM業務体系

〔前編の業務区分〕

〔業務体系〕



組織の在り方

業務 \ 組織	施設企画 部 門	F M調達 部 門	施設資産 管理部門	施設品質 管理部門	F M情報 管理部門
統括管理	◎				
企画・計画	◎				
財 務	◎	○			
施設資産管理			◎	○	
契 約		◎	○	○	
整 備		○		◎	
管理運営		○	○	◎	
評 価	○				◎
情報管理					◎

※1：◎は主な分掌組織、○は、連携部署組織

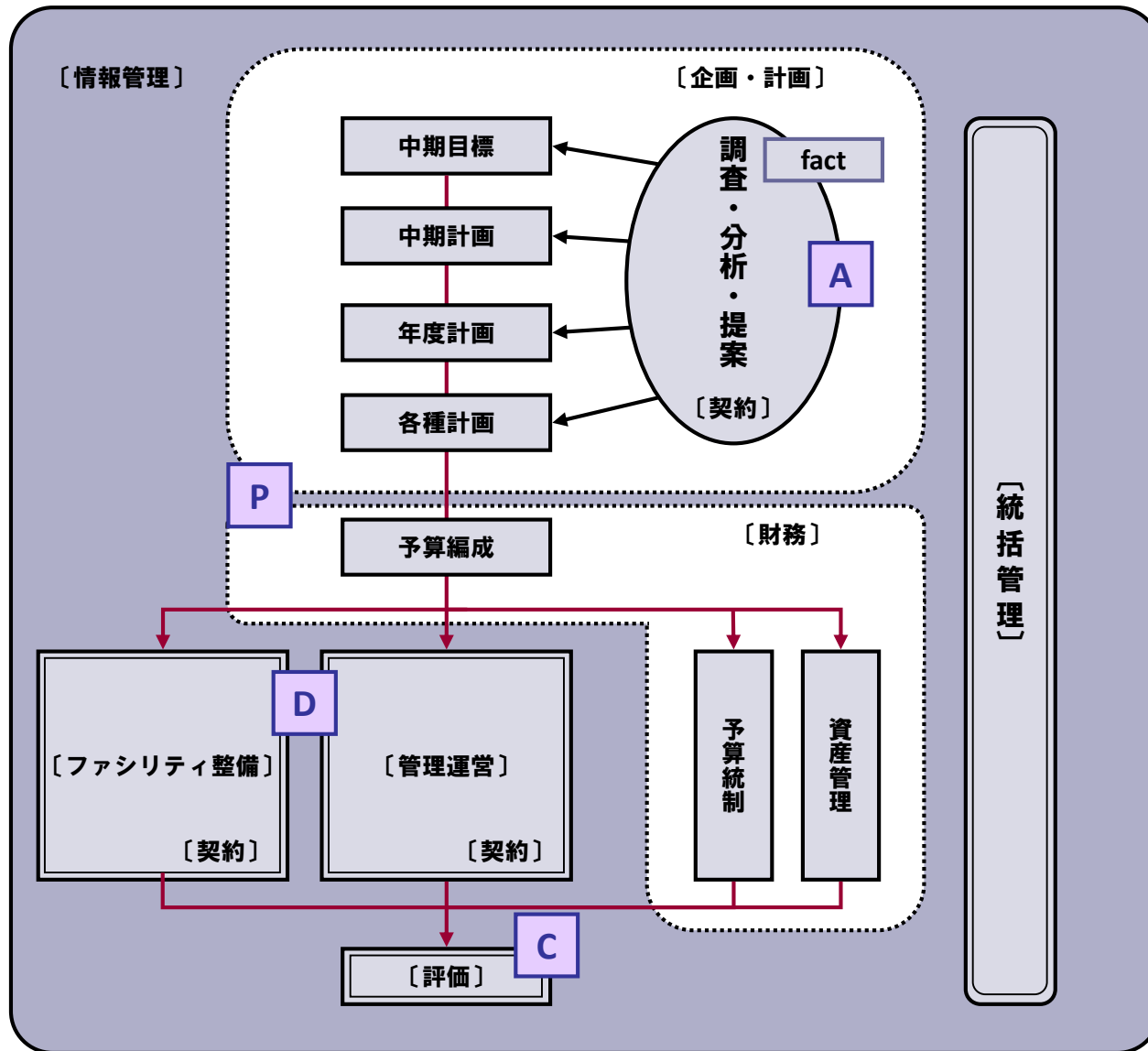
※2：FM情報管理部門に、評価に係る分掌を持たせ、施設企画部門などを牽制させる。

第4章 キャンパスFMの進め方



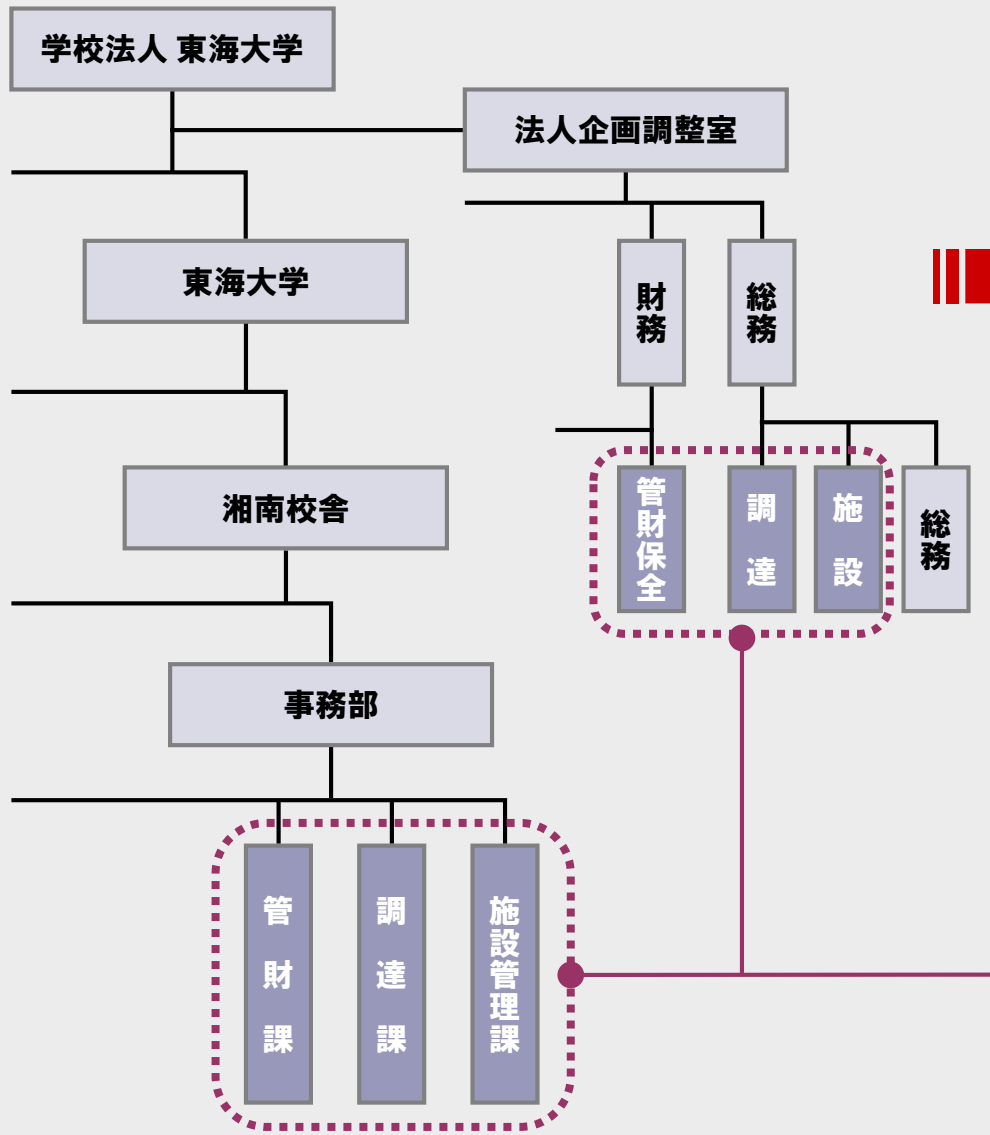
- 4.1 FM業務の洗出し
- 4.2 統括管理
- 4.3 企画・計画
- 4.4 財務
- 4.5 契約
- 4.6 施設整備
- 4.7 管理運営
- 4.8 評価系

標準的な業務プロセス

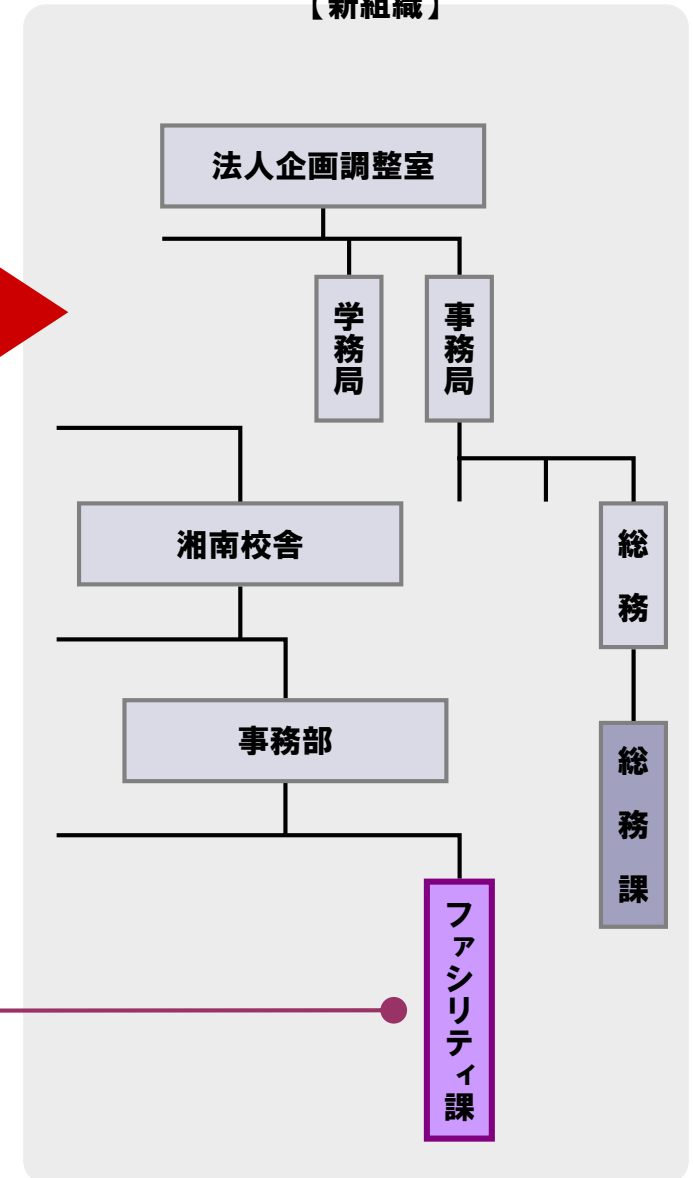


東海大学のファシリティ部への再編

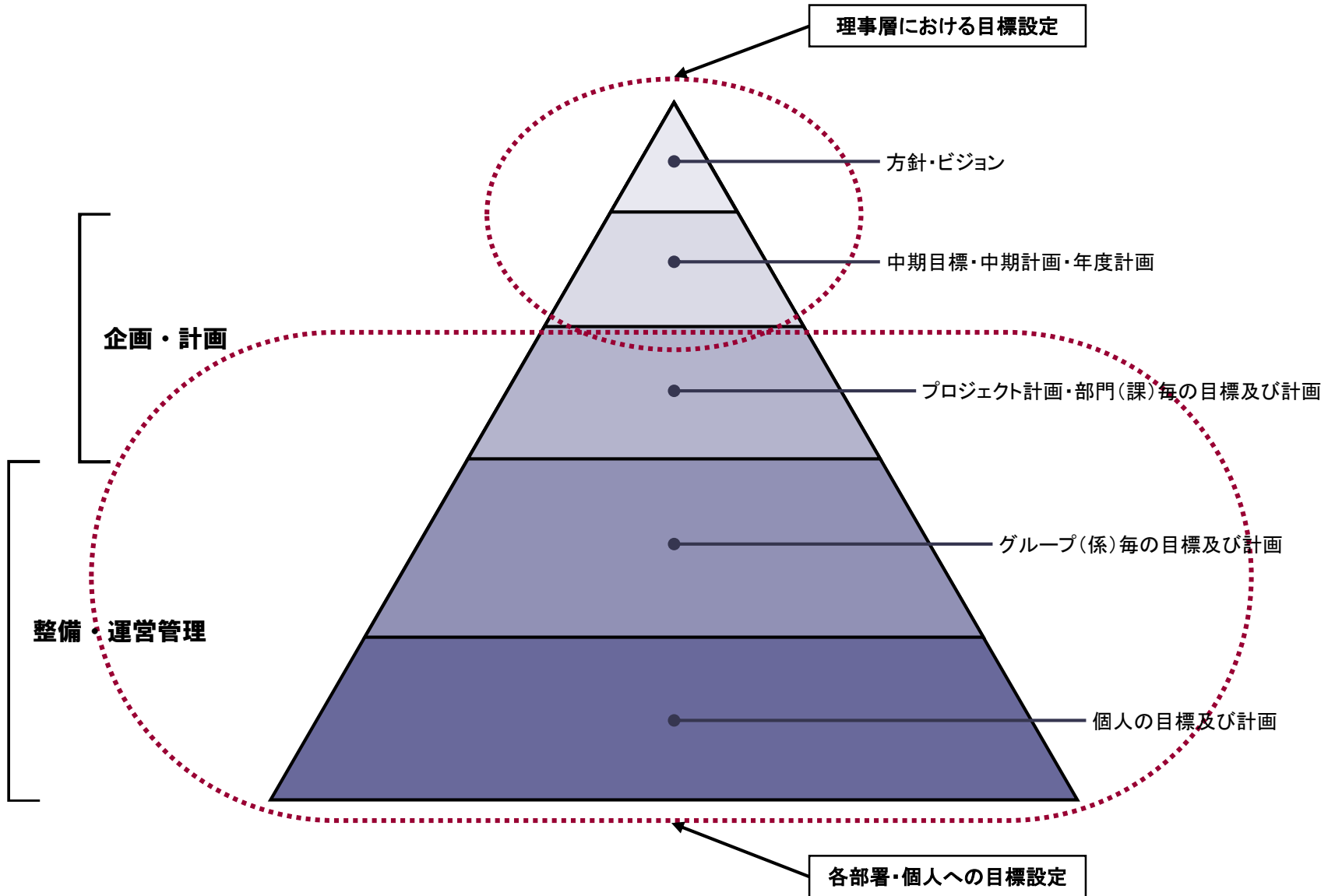
【旧組織】



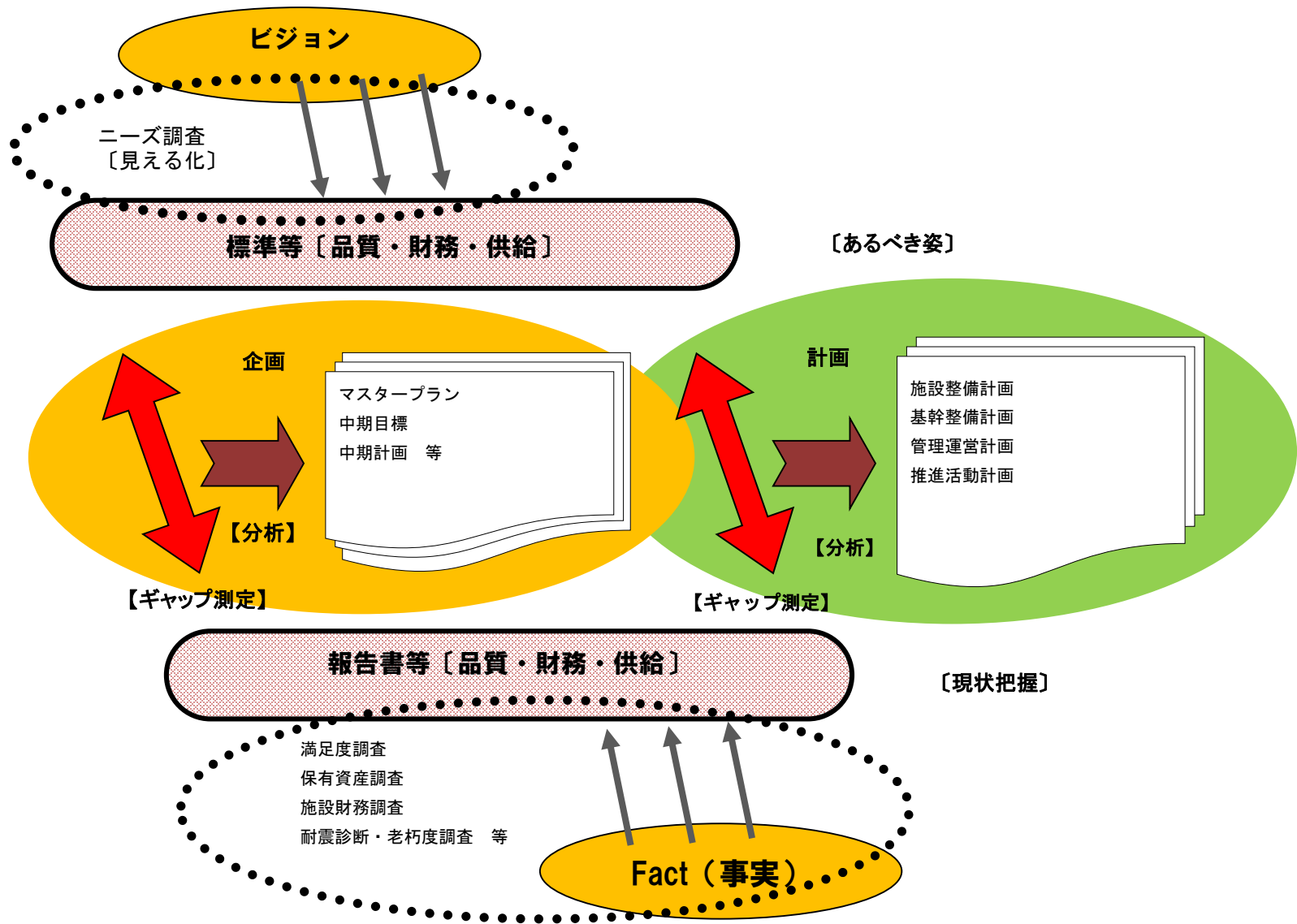
【新組織】



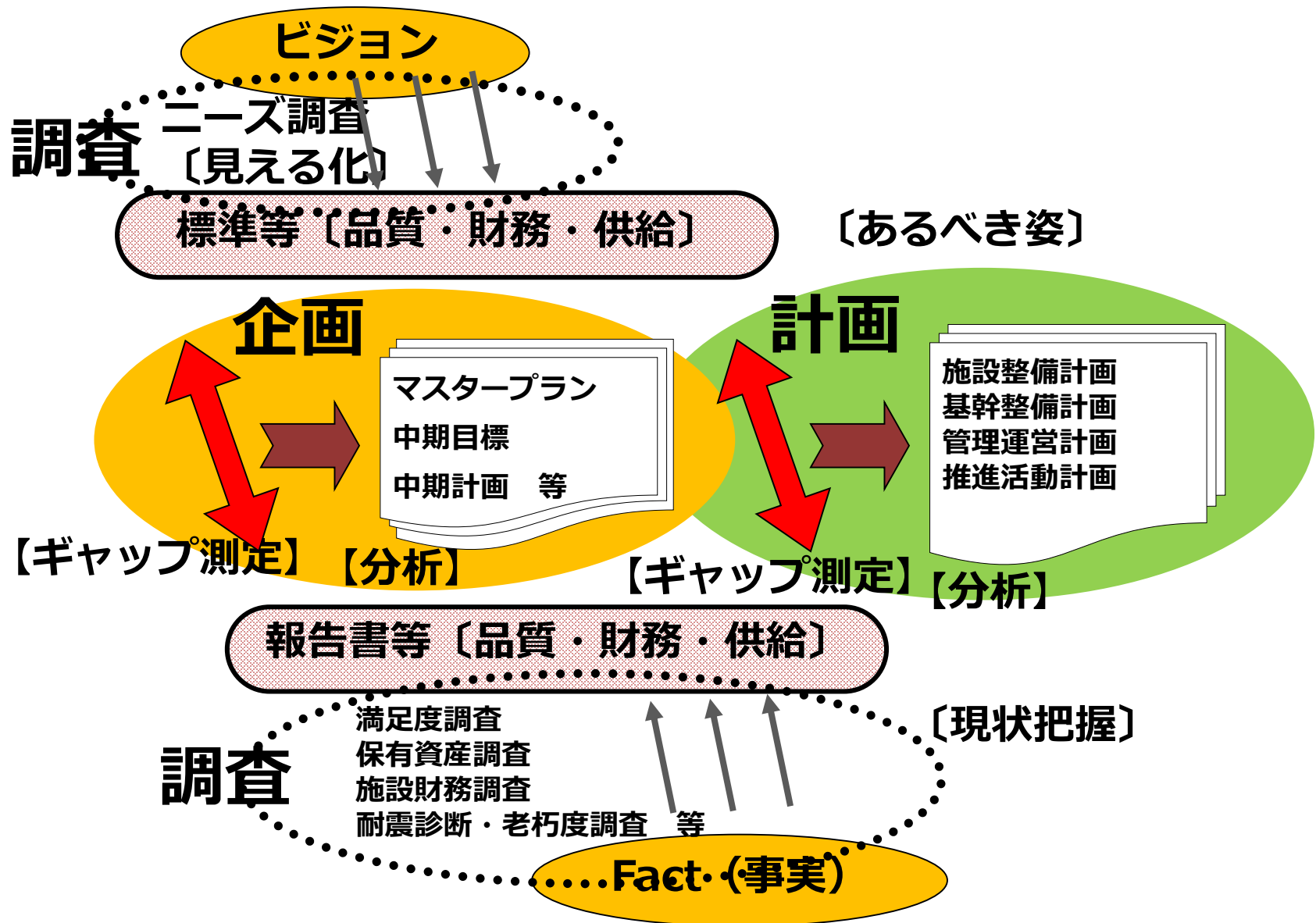
FMミッションツリー



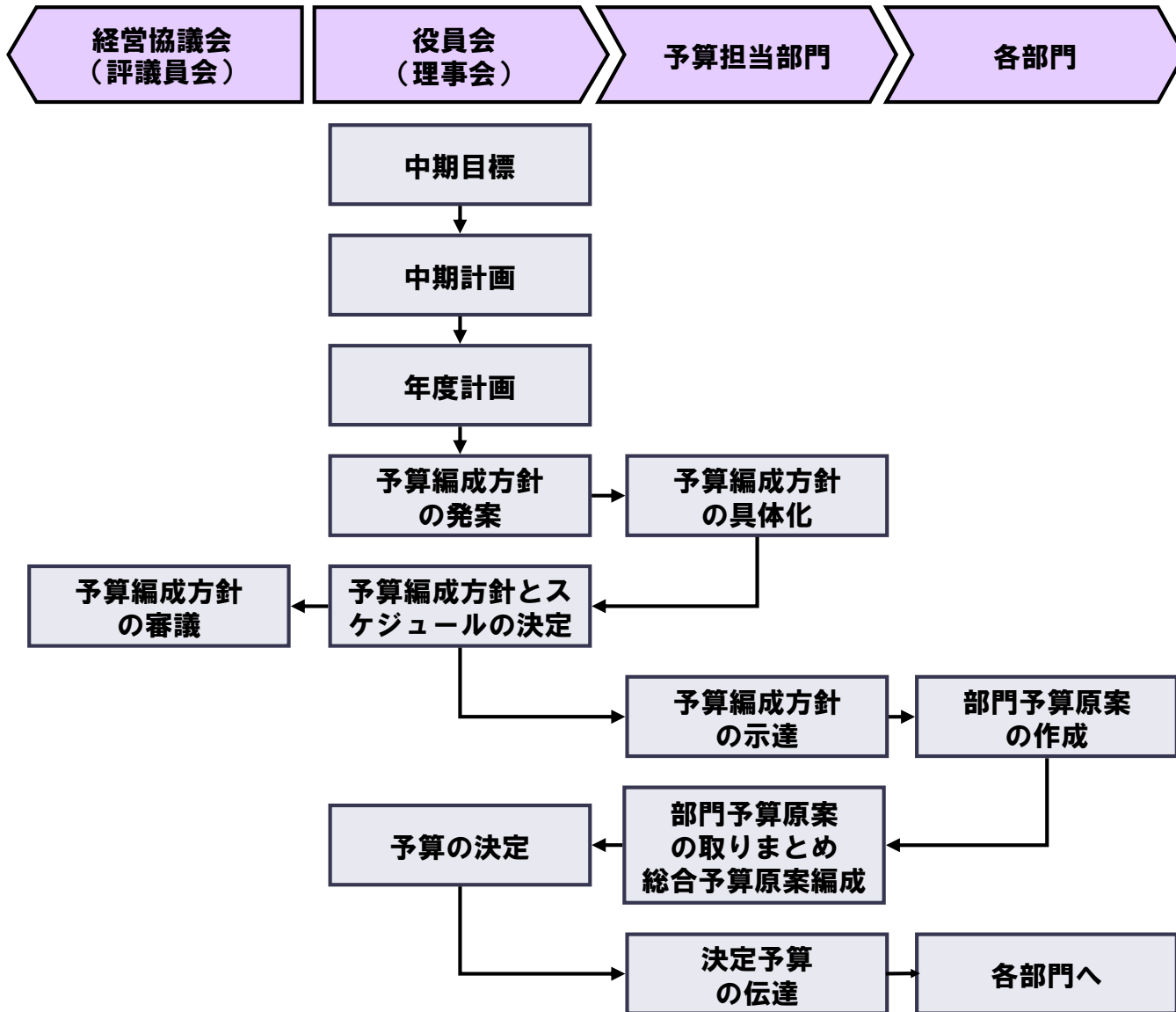
企画・計画のプロセス



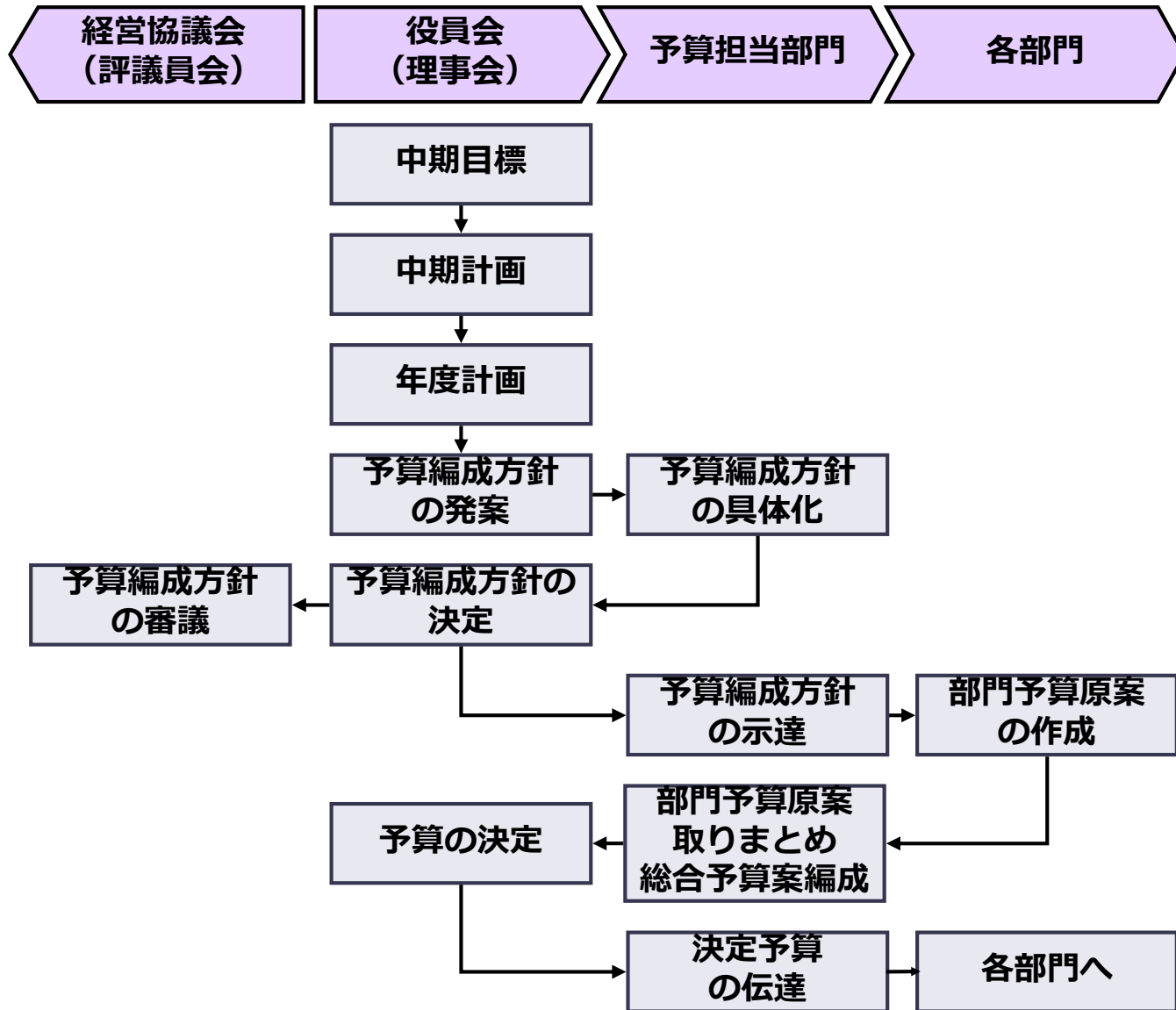
企画・計画のプロセス



予算編成プロセス



予算編成プロセス



第5章 キャンパスFMに必要なスキル



- 5.1 必要なスキルの洗い出し
- 5.2 キャンパスFMのスキル体系
- 5.3 マネジャスキル
- 5.4 プロフェッショナルスキル
- 5.5 ベーシックスキル

必要なスキルの洗い出し

■大学卒業者に求められるスキル

- 社会人基礎力：〔経済産業省〕（職場等で求められる能力）
- 学士力：〔文部科学省〕（学士課程教育の学習成果）

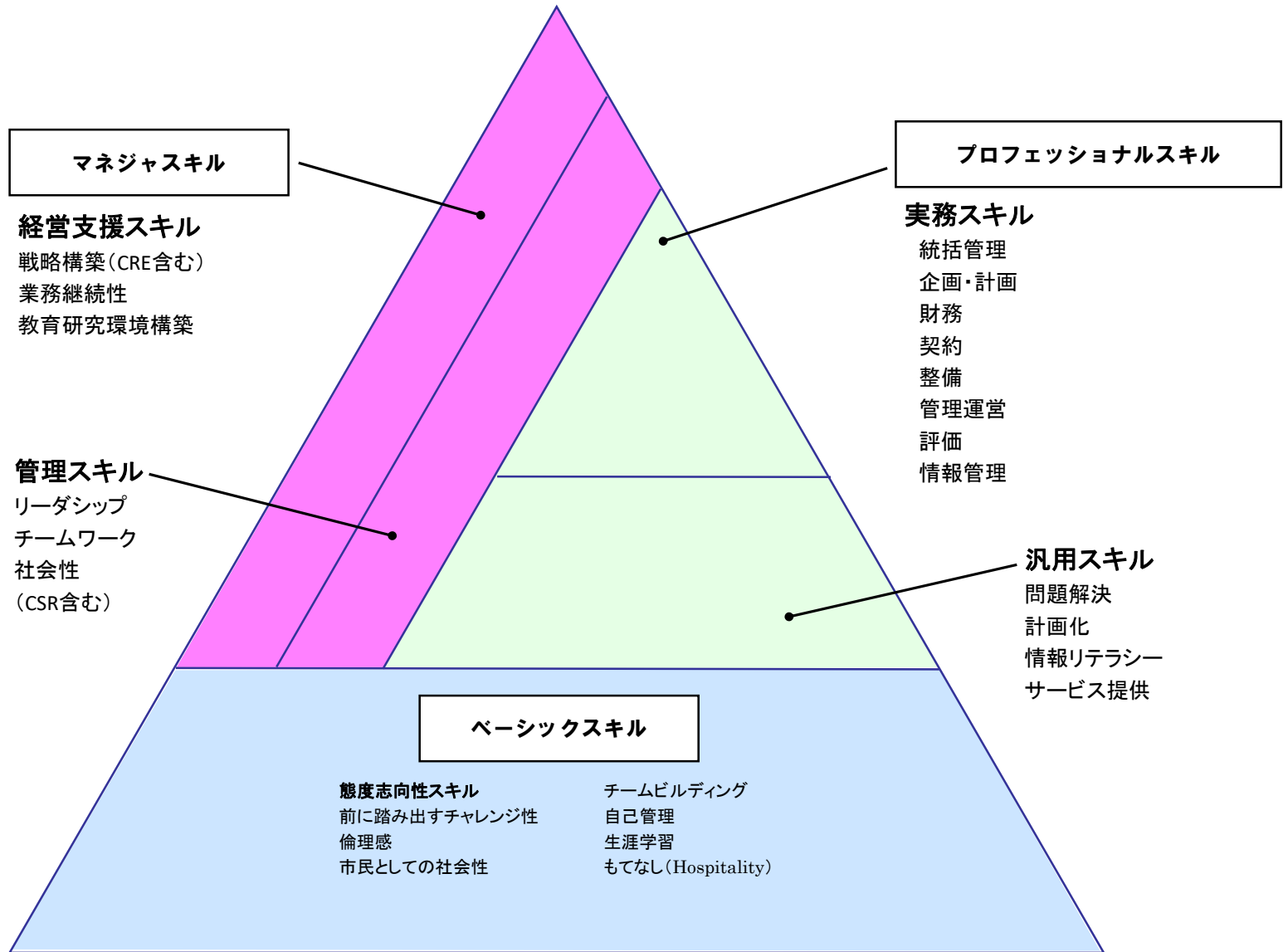
■米国におけるソフトスキル

- やりとり (Information and Communication Skills)
情報・メディアリテラシー、コミュニケーション力
- ときかた (Thinking and Problem-Solving Skills)
分析力、問題発見・解決力、創造力
- はたらき (Interpersonal and Self-directional Skills)
協働力、自己規律力、責任感・協調性、社会的責任

※ソフトスキル：

効果的なコミュニケーション、創造力、分析力、柔軟性、問題解決力、チームビルディング、傾聴力等の、他者と触れ合う際に影響を与える一連の能力

キャンパスFMのスキル体系



第6章 キャンパスFMの狙い

6.1 これからのために

6.2 ベンチマークセンターの諸外国実例

6.3 不断の改善



これからのために

■ キャンパス F M の啓発活動

□ 顧客満足度の向上

□ 理事層との信頼関係

■ ネットワークづくり

□ ウィクリーセミナー（J F M A）

□ マネ研サロン（国立大学マネジメント研究会）

■ スキルアップ支援

□ 施設整備の情報提供〔（独）国立大学財務・経営センター〕

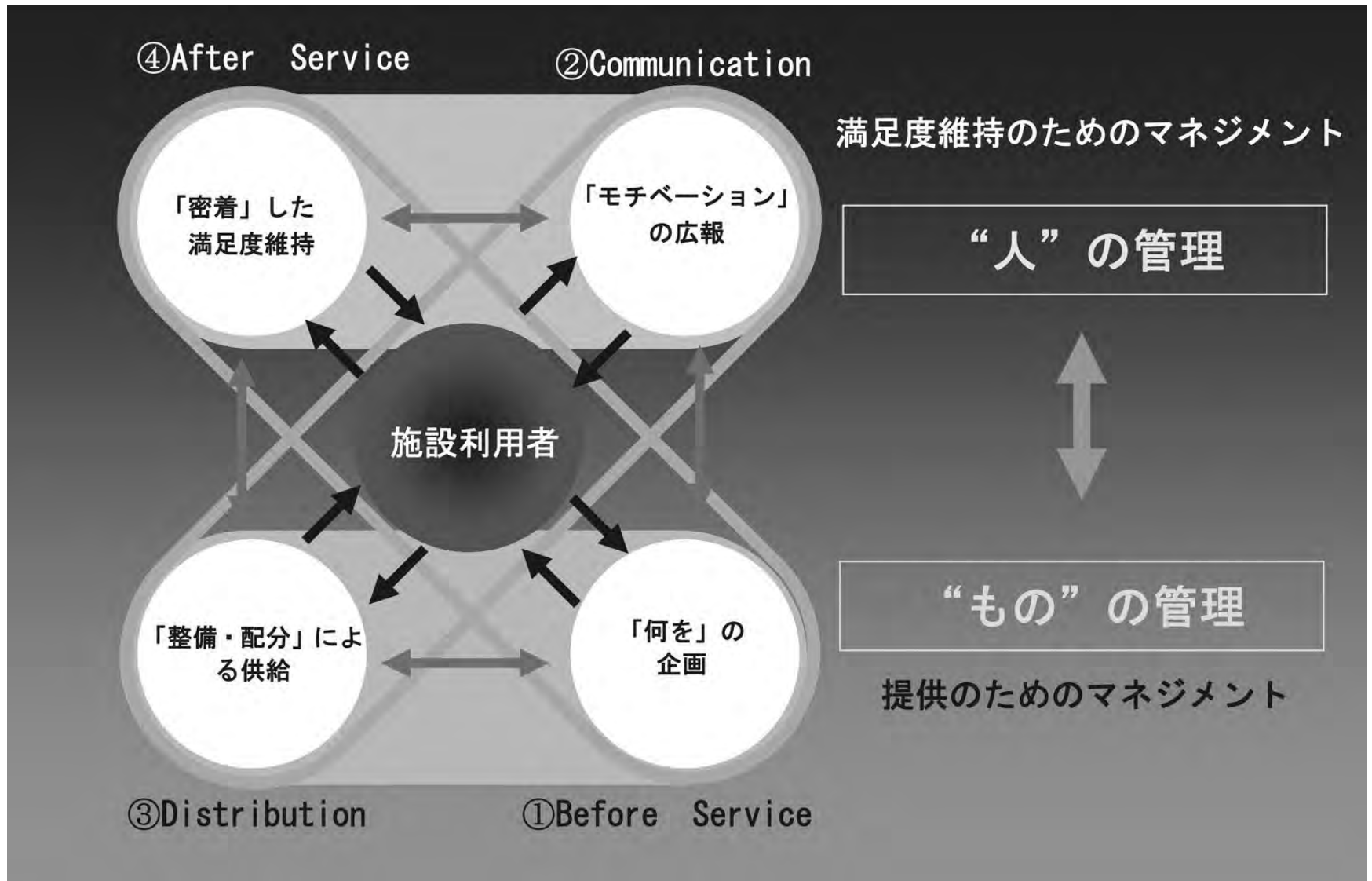
<http://www.zam.go.jp/p00/p0000108.htm>

□ 名古屋大学のファシリティマネジメント

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/image/fm_.html

■ ベンチマークセンターの設立

キャンパスFMのマーケティング

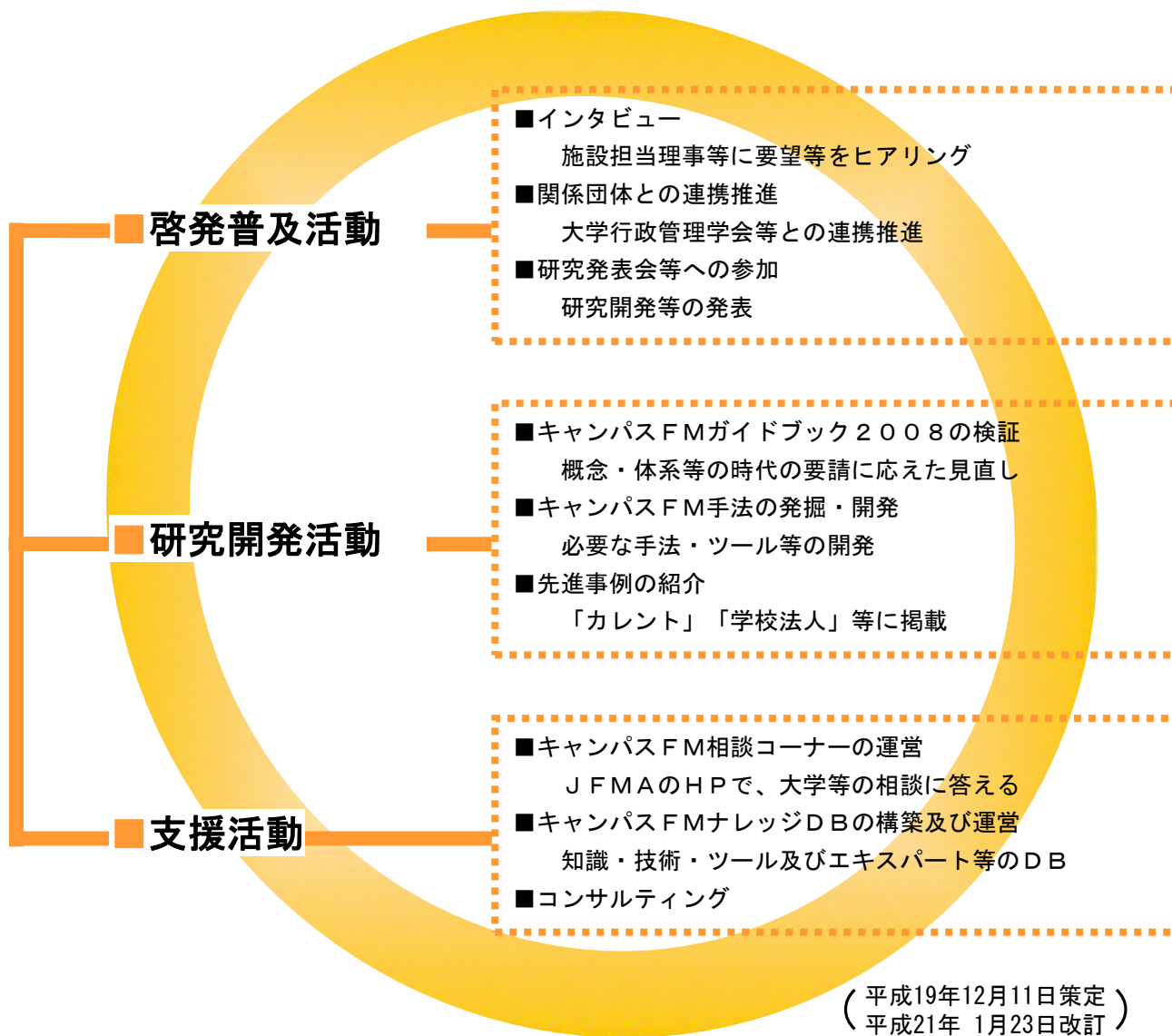




キャンパスFM研究部会の 今後の活動



キャンパスFM研究部会の今後の活動



資料などのご要望ございましたら

JFMAキャンパスFM研究部会・部会長

藤村 達雄

fujimura1234@yahoo.co.jp

部会員

前田 明洋

Akihiro_Maeda@okamura.co.jp

までご連絡ください。

ご清聴ありがとうございました。